

9月議会傍聴記



ゆめネットワークの各グループは、9月1日から始まった市議会の傍聴に行ってきました。一般質問が行われた3日間、登壇した16名のうち、4名の議員から、男女共同参画に関する質問がありました。さすがに「男女共同参画都市宣言」をした我が市だけのことはあると、市議の関心の高さに嬉しい驚きでいっぱいです。

女性の登用がまだまだ

一般質問の初日、続けざまに3人の議員から男女共同参画に関する質問がありました。私たちのグループは、ときどき本会議や委員会の傍聴に行き、男女共同参画に関する質問や答弁を聞いたことがあります。これまでは女性議員からの質問がほとんどでしたが、今回は様子が違っていました。

最初に質問に立った若い男性市議は、9月1日に施行されたばかりの「少子化社会対策基本法」に関する質問をしました。その法律に記されている「不妊治療を望む者への必要な施策」への対応を取り上げたのですが、法律施行後4日目では、丸亀市も、国や県、他市の模倣眺めの様子です。いち早く新法に目を付けた新人市議には、今後も同時期に成立した「次世代育成支援対策推進法」と併せ、市の取り組むべき施策を提案してほしいものです。さらに、「男女共同参画社会基本法」などを市政に生かす視点を持っていただきたいと期待してやみません。

続く男性市議は、女性の登用と男女共同参画条例に関する質問でした。丸亀市同様に「男女共同参画都市宣言」をした他市と比較し、管理職0%の丸亀市では、女性の登用状況はまだまだと指摘。そして、審議会などの女性委員登用促進への有効策を提案されました。また、地域の状況に合わせた条例制定が、男女共同参画社会の実現に向けた施策推進には不可欠であると言及。答弁では前向きな市の姿勢を聞くことができ、傍聴席

は、丸亀市民で良かったと、拍手をせんばかりに沸き返りました。(まちづくりグループまるみな)

ジェンダー・フリーは自分らしさ

一般質問の最終日の様子をケーブルテレビで自宅傍聴しました。男性議員が、「ジェンダー・フリーは家庭の秩序を乱すものではないか」と質問しました。「男女共同参画社会基本法」ができて、まだ誤解があるのでしょうか。

国は、「男女共同参画は、生物学的な性差を否定するものではない」と見解を示したそうです。丸亀市も「男らしさ、女らしさととらわれずに個性を尊重し、お互いが利益も責任も分かち合いながら、よりよい社会をつくっていく」と答弁しました。家庭でも、男女が話し合い、理解し、助け合えば、各家庭に合ったジェンダー・フリーが可能だと思います。

市では、男女共同参画モデル校で実践研究し、丸亀市男女共同参画審議会も始まっています。論議を尽くし、「男だから」「女だから」とあきらめずに自己実現できるための環境を整えてほしいものです。

(学校図書館を考える会・丸亀)

初めて傍聴したメンバーの感想

■テレビ中継では見えない部分(例えば、議員さんたちの仕草や、傍聴人のつぶやきなど)が見えて、何だかおもしろかったです。この傍聴席が市民でいっぱいになったらいいなと思いました。(丸亀「地球村」)

■女性議員の少なさにショックを受けました。男女共同参画に力を入れている現在、私たち女性も、もう少し市政に目を向けなければと、強く感じました。

■質疑応答はもっと活発な意見交換を期待していましたが、期待はずれでした。

■議会の傍聴は、市政の様子を見ることのできる場ではないでしょうか。それだけに興味津々でした。

(以上、丸亀市消費者モニター)



丸亀市男女共同参画セミナー

丸亀市では、平成11年度から、各地区コミュニティセンターで男女共同参画セミナーを開催しています。私たち市民が地域で気軽に参加できるコミュニティ活動の一環として、啓発事業に取り組んでいるのです。今年度のテーマは、「絵本とジェンダー」「昔ばなしをひもとしてジェンダーを考える」の二つ。ゆめネットワークのメンバーも、近くで開催されたセミナーに参加してきました。次の機会には、あなたもぜひ参加してみてください。

絵本とジェンダー

9月12日、午後7時。大型台風の影響で大粒の雨が降りしきる中、城北コミュニティセンターでセミナーが始まりました。講師の山地洋子さんは、たくさんの絵本を紹介してくれました。

「くまの子ウーフ」のウーフはこう言うのです。「ねえ、おかあさん。ぼくね、なんでできているかといえぼく、ぼくでできてるの！ウーフはウーフでできてるんだよ。ね、おとうさん、そうでしょ。」「たいせつなこと」の最後のページは、こうです。「あなたはあなた。あなたにとってたいせつなのは、あなたはあなたであること」。

一人一人の「その人らしさを大切に」という男女共同参画の基本が絵本にちゃんと書いてあります。幼い頃にこんな絵本に出会った子どもは、自分を大事にする自尊の気持ちが育ち、周りの人やものを大切にできる素敵な大人に成長するに違いないと、優しい心になれました。

昔ばなしをひもとしてジェンダーを考える

9月28日・午後1時30分から、土器コミュニティセンターでのセミナーに参加しました。講師の星川叔子さんは、まいまい塾ネットワークという紙芝居のボランティアをされていて、にこやかな笑顔と巧みな話術で、みんなで歌を歌ったり、手遊びをしたりしているうちに、話に引き込まれてしまいました。

星川さんは、老人大学などで、「桃太郎」の話を班ごとに作りかえ、配役を決めて発表する試みを続けて



▲「桃太郎」の話を朗読しました

いるそうです。「おじいさん。たまには私も山に芝刈りに行きたいわ」「そいじゃ今日は、わしが川に行きたるわ」「おじいさんはしんどいと言うけど、芝刈りもやってみると大したことないわ」「この汚れは、なかなかのかんの。洗濯も、してみると大変じゃわい」といった具合に、役割を替えてみると、いろいろな気づきがあります。

男はこう、女はこう、といっても仕方ありません。要は、人間として困っていたら助け合う、助けてもらったらありがとうといえる、権利も主張するけど義務も果たすといったことがちゃんとでき、お互いを理解して認め合えたら、男女共同参画は自然に浸透していくと思います。

男も女も、いくつになっても人生を主体的に生きる気持ちを持ち続けること。そのためには、安心して安全に暮らせる地域をつくっていく努力も必要です。

「すてっぷ」創刊

「すてっぷ」は、丸亀市男女共同参画推進研究会が編集している職員向けの啓発紙です。メンバーの栗山さんと和泉さんにお話を伺いました。

様々な課の若手職員が「すてっぷ」を年4回発行する中で、男女共同参画に関する情報を提供し、身近な話題から理解を深め、市役所職員の意識を変えていこうと取り組んでいるそうです。しかし、まず意識が変わったのはメンバー自身のように。「男女共同参画」という言葉、文字自体に敏感に反応するようになり、それまでは気づかなかった自分自身や身近に氾濫するジェンダー・バイアス(ジェンダーに基づく偏見)が目がいくなったようです。また、男女共同参画がすべての分野にかかわることだと知って驚いたとのこと。

若い職員が男女共同参画の視点をしっかり身に付けた丸亀市の未来は明るいと、心強い味方を得たような晴れやかな気分にもさせてもらいました。